

家 庭

1 これからの家庭科教育について

- 自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する。
- 家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流、食育、消費の在り方、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。
- 体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、問題解決的な学習をより一層充実する。
- 学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意する。

2 全面実施に向けて、各学校において取組が求められること

小学校

- 平成 23 年度の全面実施を円滑に行うため、平成 22 年度の第 5 学年から新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう、2 年間を見通し、各内容に適切な時数を配当した指導計画の作成に配慮すること。
 - ・ 学習指導要領改訂の理解
 - ・ 知識・技術の習得とともに、創意工夫する能力と実践的な態度の育成を目指した題材の検討
 - ・ 教材研究と教育環境の整備
 - ・ 食育の推進（発達の段階を踏まえた学校教育全体の一貫した取組の推進）

中学校

- 平成 24 年度の全面実施を円滑に行うため、平成 22 年度入学生から新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう、3 年間を見通し、各内容に適切な時数を配当した指導計画の作成に配慮すること。
 - ・ 学習指導要領改訂の理解
 - ・ 知識・技術の習得とともに、工夫し創造する能力と実践的な態度の育成を目指した題材の検討
 - ・ 教材研究と教育環境の整備
 - ・ 食育の推進（発達の段階を踏まえた学校教育全体の一貫した取組の推進）

高等学校

- 平成 25 年度入学生から年次進行による実施を円滑に行うため、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び各科目の年間指導計画の作成に配慮すること。
 - ・ 学習指導要領改訂の理解
 - ・ 義務教育段階から高等学校の指導内容への系統的な理解
 - ・ 生徒の興味・関心・意欲を高める題材の工夫
 - ・ 思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法の研究

3 家庭科における言語活動の充実

- ・ 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる。（小学校）
- ・ 衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる。（中学校）
- ・ 子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、他者とのかかわる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実させる。（高等学校）

4 思考力・判断力・表現力等の育成のための授業改善例

【小学校 第6学年】

本時の目標 — 季節や気温に応じた着方が分かり、適切な着方を工夫できる。		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 課題把握 ○ 衣服のはたらきについて思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した「衣服のはたらき」について要点を整理する。 既習の「夏を涼しく過ごそう」住まいの学習について、想起させる。 衣服の着方の工夫によって、夏を涼しく冬を温かく過ごすことができることを知らせる。 	
2 本時の内容確認	季節や気温に応じた衣服の着方を知り、適切な着方を工夫しよう。	
3 予想を立てる ○ 夏、涼しく感じる衣服の特徴を考え、発表する。 ・「風通しがよさそうなAのシャツ」 ・「さらっとしているBのシャツ」など	<ul style="list-style-type: none"> 夏、ドッジボールをしたらA・Bどちらのシャツを選べばよいか、理由を付け、考えさせる。 A：Tシャツ（綿・メリヤス編み） B：カッターシャツ（綿とポリエステル混紡・平織り） 	
4 観察・実験で確かめる ○ 観察・実験の方法を聞き、見通しをもつ。 ○ 班で確かめ、結果をワークシートに記入する。 ・触ってみて手触りや伸びを確かめる。 ・ルーペで布のつくりを見る。 ・通気性と吸水性の実験をする。 ○ 実験結果をまとめ、整理する。	<ul style="list-style-type: none"> AまたはBのシャツが涼しく感じるわけを観察・実験で確かめさせる。 A・Bの布地を観察させ違いをまとめさせる。 A・Bのどちらの布が通気性・吸水性がよいか、実験により確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①通気性：筒に布を巻き、同じ児童が同じ息遣いで息を吹き、吊り下げられた紙が動いた距離を測定する。</p> <p>②吸水性：色水に布の端をつけ、時間の経過と吸った水の長さを測定する。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">教</p> <p>科学的な根拠と関連付け、実感を伴った理解とさせる。</p> </div> <p>「知識・理解」 夏の涼しい着方について理解している。 (ワークシート)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 布の拡大写真や図を用い、通気性と吸水性には布のつくりや空気の流れが関係していることを知らせる。 通気性・吸水性のよい布は、涼しく感じることに気付かせる。 夏を涼しく住まう学習の風通しと関連させ、襟や袖口を開けること（開口部が広くなること）で、涼しく感じることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の気付きが深まるよう机間指導をする。 実験結果を衣服の着方と関連付けてまとめる。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">考</p> <p>観察・実験結果や既習内容等と関連付け、考えさせる。</p> </div> <p>「創意工夫」 夏の涼しい着方について工夫している。 (ワークシート)</p>
5 深める ○ 夏、涼しく感じる衣服の着方を考える。 ・「通気性のよい布の服を着る」 ・「袖口や襟口を開ける」など	<ul style="list-style-type: none"> 努力を要する児童には、生活と関連付けイメージさせる。 家で調べた手持ちの服を基に、夏、涼しく感じる着方を描かせる。(個人) 努力を要する児童には観察・実験や教師が準備した実際の衣服と関連付けながら考えるようアドバイスする。 	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ことばの力活用POINT</p> <p>伝えたいことを明確にさせる。 分かったことと考えたことを区別させる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 描いた絵を、班で交流させ、工夫されている着方を選ばせ、理由を付け発表させる。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">表</p> <p>図や言葉を使い、表現させる。</p> </div> <p>「知識・理解」 季節や気温に応じた着方を理解している。 (ワークシート)</p>
○ 冬、寒さを防ぐ着方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 布の通気性、吸水性のよさや衣服の着方により、涼しく感じることを確認する。 教科書・図・ビデオ等により寒さを防ぐ着方（布の性質・厚さ、重ね着等）についても確認する。 努力を要する児童には生活と関連付けイメージさせる。 本時の学びを整理させる。 次時の学習内容「衣服の手入れができるようになるう」を予告する。 宿題「洗たくをするときに注意していることを家族に聞いてみよう。」の確認をする。 	
6 本時のまとめと次時の確認 ○ 季節や気温に応じた着方について分かったことと感想をまとめる。		

【中学校 第3学年】

本時の目標 — 幼児の体の発達に関心をもち、幼児の体の発達の特徴を理解する。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<p>1 課題把握</p> <p>○ 自分の誕生時の身長・体重・歩き始めた時期をワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家での聞き取り調査等を基に、誕生時の数値等に興味をもたせる。(プライバシーに配慮する。) 発達には特徴や個人差があることを知らせる。 	<p>保健体育等で学習した既習内容と関連付ける。</p> <p>教</p>
<p>2 本時の内容確認</p>	<p>幼児の体の発達に関心をもち、幼児の体の発達の特徴を知ろう。</p>	
<p>3 課題追究</p> <p>○ 教室内の体験コーナーの内容をワークシートで確認する。</p> <p>○ 幼児の体の発達の特徴について、体験を通して気付いたことを個人でまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の体の発達にはどのような特徴があるか考えさせながら体験をさせる。 各コーナーを回りながら、体験の気付きが深まるようにアドバイスをする。 <p>(体験コーナー例)</p> <p>① 体重コーナー：1・3・5歳の平均体重をおもりで実感し、変化をグラフに記入しよう。</p> <p>② 身長コーナー：1・3・5歳の実物大写真で平均身長を確認し、変化をグラフに記入しよう。現在の自分と比較し、頭部の割合を確認しよう。</p> <p>③ 手・足・頭コーナー：1・3・5歳の手・足・頭の大きさを現在の自分の大きさと比較しよう。</p> <p>④ ウォッチングIコーナー：首がすわる→→歩き始めの段階の様子のビデオを見て、特徴をまとめよう。</p> <p>⑤ ウォッチングIIコーナー：1・3・5歳が描いた絵、物の持ち方の写真を見て、特徴をまとめよう。</p>	<p>「関心・意欲・態度」 幼児の体の発達に関心をもち、気付いたことをまとめようとしている。(ワークシート)</p>
<p>4 交流・まとめ</p> <p>○ 小グループで、幼児の体の発達の概要や順序性等について交流し、意見をまとめる。</p> <p>○ 全体に発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数字、グラフや幼児の姿に着目させ、考えられる幼児の体の発達の概要や順序性等をまとめ、発表させる。 <p>(発表例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均身長のグラフから、身長は1歳で生まれた時の約1.5倍になることが分かる。 ウォッチングIコーナーのビデオから、初めに首がしっかりすることが分かる。 物の持ち方の写真から、だんだん指先を使うことができるようになることが分かる。 など 	<p>複数の情報を整理させ、その根拠となるデータに基づいて考えをまとめさせる。</p> <p>考</p>
<p>ことばの力活用POINT</p> <p>根拠をもとに考察させる。</p> <p>他者の意見と関連付けて発表させる。</p> <p>○ 幼児の体の発達の概要や順序性等を知る。</p> <p>○ 運動機能の発達の概要を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の体の発達の概要や順序性等を理解させる。 頭から臀部へ、中心部から末端部への順序。など 体の発達にともない、歩く・走る・とぶなどの運動ができるようになることを知らせる。 発達には個人差があることを知らせる。 努力を必要とする生徒には、教具(写真等)を利用し、イメージさせる。 	<p>自分の成長や体験と関連付け、実感を伴った理解とさせる。</p> <p>教</p>
<p>5 運動機能の発達の考察</p> <p>○ 年齢別運動機能の発達の様子の写真を見て、年齢を推測し理由とともにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3枚の年齢別運動機能の発達の様子の写真(ものを持って転ばずに走る・片足でケンケンとびができる・不安定な場所でも危なげなく歩く)を示し、本時の学習と関連付け、年齢を推測させ、ワークシートにまとめさせる。 	<p>「知識・理解」 幼児の体の発達の特徴を理解している。(ワークシート)</p>
<p>6 本時のまとめと次時の確認</p> <p>○ 教科書を本時の学習内容と関連付けて読む。</p> <p>○ 自己評価をする。次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学びを整理させる。 次時の学習内容「心の発達について考えよう」を予告する。 宿題「身近な人に、初めて自分が話したことは何だったか聞いてみよう。」の確認をする。 	<p>既習事項を活用し考えさせる。理由を本時の学習内容と関連付けて書かせる。</p> <p>考 表</p>

【高等学校 家庭 家庭総合】

本時の目標 — 食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを理解し、栄養的にバランスのとれた家族の献立を考える。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に学習した食事摂取基準を想起する。 ○ 個人の食生活調査を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に学習した，食事摂取基準について想起させる。 ・ 個人の食生活調査をワークシートに記入しているか確認させる。 ・ 栄養的にバランスのとれた食事について，1日当たり，どんな食品をどのくらい食べるとよいか，食品と摂取量に興味をもたせる。 	<p>教</p> <p>中学校で学習した既習内容と関連付ける。</p> <p>「関心・意欲・態度」 食事摂取基準に関心をもち，食品と摂取量について考えようとしている。（ワークシート）</p>
<p>2 本時の内容確認</p>	<p>栄養的にバランスのとれた家族の献立を考えよう。</p>	
<p>3 探究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 四つの食品群別摂取量のめやすを知る。 ○ 食品群別摂取量を満たす食品の量がわかる。 ○ 作成する献立の条件等を知る。 ○ 班ごとに，Aさんの家族を例にした1日の献立を考える。 ○ 作成した献立の食品群の合計を算出し，過不足について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品群の分類について理解させる。 ・ 年齢，性別，身体活動レベルによって，食品群別摂取量のめやすが違うことを確認させる。 ・ 作成する献立の条件等を確認させる。 ・ 献立作成のチェックポイントについて説明する。 ①主食を決める。②主食に合う主菜を決める。③主菜に合う副菜を決める。④汁物を決める。⑤季節の果物等を決める。⑥過不足を調整する。 ・ 班ごとに，役割分担をさせ，段取りよく献立を作成させる。 ・ 各班を回りながら個に応じたアドバイスをする。 ・ 努力を必要とする生徒には，教具（イラスト・写真等）を用いて献立をイメージさせる。 ・ 栄養バランスに配慮して献立を作成しているか，内容を整理して制限時間で分かりやすく発表させる。 	<p>「知識・理解」 食品群別摂取量のめやすを理解している。（ワークシート）</p> <p>考</p> <p>自分の考えと他者の考えを比較させ，自分の考えをさらに発展させる。</p> <p>「思考・判断」 栄養的にバランスのとれた家族の献立作成ができる。（ワークシート，発表用模造紙）</p>
<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに作成した献立をまとめる。 ○ 全体に発表する。 <p>ことばの力活用POINT 考察した結果を，結論先行で分かりやすく述べさせる。</p>	<p>（発表例） ・ 献立は○○○を考えた。1日分の食品群別摂取量を算出した結果，食品群別摂取量のめやすと比較して不足している食品群とその量は，3群 いも類 100g，1群 乳・乳製品 150g。摂り過ぎている食品群とその量は，4群 砂糖 30g，油脂 20gであった。</p>	<p>考 表</p> <p>班の考えを整理させ，結果を的確に表現させる。</p>
<p>5 考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに作成した献立の改善策を考え，ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過不足の食品群を分析し，献立の変更，材料の変更を具体的に考えさせる。 	<p>考</p> <p>既習事項と本時の学習を活用し，考えさせる。</p>
<p>6 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標に照らし合わせ，自己評価シートに記入する。 ○ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習をまとめ，学習の振り返りを自己評価シートに記入させる。 ・ 次時の学習内容を予告する。 	